



チーム福岡！勢いそのまま！ 空手道競技 続々入賞！！

伊予三島運動公園体育館において、空手道競技が行われた。

空手道競技は、2020年東京オリンピックの追加競技に正式決定し、現在注目を集めている競技であり、会場に入ると、観客席は超満員で熱気に溢れていた。福岡からは、少年女子形個人に平山鈴菜選手、成年女子組手に片山花女選手、成年男子組手個人軽量級に早田知孝選手、中量級に明吉洗樹選手、重量級に江藤純哉選手の5名が出場した。

明吉選手は、準々決勝で茨城と対戦した。中盤まで互いに距離をとり様子を伺う展開となったが、後半に体を密着させながらの中段回し蹴りが炸裂、次に距離をとってからの中段回し蹴り、上段突きが見事に決まり相手を圧倒した。準決勝の相手は地元愛媛。完全アウェイでの対戦の中、激しい攻防を繰り広げるが、惜しくも敗退した。続く3位決定戦では大阪と対戦、一進一退の試合展開に、1ポイントリードされたまま試合終了。4位が確定した。

明吉選手は「目標のベスト4には入れて良かったけど、やっぱり負けると悔しい。」とコメントし、中藤監督も「ここまで来たなら3位に入らないと。」と檄を飛ばし、試合を振り返った。明吉選手は成年種別に初挑戦し、4位入賞は立派。東京オリンピックの正式種目となった空手道競技で、この経験を生かし、是非、出場を目指して、福岡を熱く盛り上げてくれることに期待したい。

江藤選手は、3回戦で茨城と対戦し、終始自分のペースで試合の流れを作り見事に勝利した。続く準々決勝では、地元愛媛と対戦し、相手に先にポイントをリードされて追いかける展開。後半に猛追するが、ブザーが鳴り試合終了。5位が確定した。

江藤選手は、「愛媛の本田選手に勝った良かったが、5位入賞できて良かった。」とコメントした。中藤監督は「今福岡県の空手道界では世代交代が行われており、若い力がどんどん成長している。将来が楽しみ。」とコメントしてくれた。福岡県の選手がオリンピックに出場してくれることを期待したい



<試合の様子(上・下)>



<中藤監督(左)と明吉選手(右)>



<競技の様子>

馬術競技 成年女子 連日の入賞ならず。



7日(土)、兵庫県の三木ホースランドパークで、成年女子標準障害飛越が行われた。福岡からは、古川美三子選手が、ゴールデンフラッグ号と共に出場した。

古川選手は、前日行われた成年女子ダービーで、ファルコン号と共に優勝を果たしており、本日も大きな期待が寄せられたが、結果は9位であり、惜しくも入賞を逃した。

馬術競技は昨年、少年種別でも好成績を残しており、次戦も活躍を期待したい。

強豪都府県との戦いに屈す少年種別！



いよいよ本国体も終盤を迎える。7日（土）は、複数の少年団体種目で強豪と当たる組み合わせが続く。

少年女子バドミントンは、ベスト8をかけた1回戦で埼玉県と対決。第1ゲームのダブルスでは、第3セットにもつれ込む接戦をものにした平野・小西組。最後は、長いラリーに粘り強く応戦し、ダブルスで最も重要であるコンビネーションで相手を上回った。しかし、第2、第3ゲームのシングルスでは、ともに0-2での連敗。埼玉に傾いた流れを止めることができず敗退。



<バドミントン少年女子 平野・小西ペア>

少年男子柔道では、ベスト16をかけた2回戦で大阪府と対戦。0-1のビハインドで迎えた中堅戦。福岡は安部選手が、巧みな試合展開に持ち込み、腕ひしぎ十字固めを決め、見事一本勝ち。1-1のタイにしたが、副将戦では指導を受け、再び1-2の劣勢となる。迎えた大将戦、終始攻め続けた森優心選手だが、腰を引いて戦う相手に手こずる間に、無情にも試合終了のブザーが鳴り、敗れてしまった。



<技をかける安部選手>

少年男子バレーボールは、前日1回戦で香川県を下し、ベスト8をかけ、2回戦で東京都と対戦した。試合序盤、強烈なジャンプサーブと決定力の高いスパイクで東京都が得点を重ねていった。福岡県は、佐伯聖海主将のバックアタックなどで応戦するも、相手の勢いを止めることができず、13-25、19-25、セットカウント0-2で敗れた。



<佐伯聖海選手のスパイク>

選手たちは、強豪相手に臆することなく、自らの力をいかに発揮した。この姿こそ、チーム福岡の姿であり、全ての選手、そして、チーム福岡の誇りである。選手たちの活躍に拍手を送りたい。

Team 福岡の現在状況と今後の展望

7日（金）終了現在、福岡は前日から1つ順位を落とし、7位となっている。千葉、兵庫、京都と、競合する府県が順位を上げてきており、ここからが正念場となってくるだろう。また、8位につける福井の存在も脅威となる。

残された競技の昨年の結果を参考にすると、福岡は、約480点獲得しており、昨年同様の結果を残せば、例年8位以内の目安とされる1500点を超えることができる。しかし、福井も含め競合する府県は、北海道を除いて福岡を上回っている。特に、千葉は約750点獲得しており、昨年同様だと逆転されることも十分に考えられる。また、福井は、ポイントで約200点獲得しており、警戒が必要となる。福岡がこのままの順位をキープするには、昨年同様に力を発揮することと、特に千葉、福井を抑えることが必要となってくる。残された競技の奮闘を期待したい。

男女総合成績（天皇杯） 10月7日終了現在				
順位		都道府県名	得点	昨年度順位
1位	➡	東京	1895.5	1位
2位	➡	愛媛	1833.5	7位
3位	➡	神奈川	1407.5	8位
4位	➡	大阪	1362	6位
5位	➡	愛知	1263.5	4位
6位	⬆	埼玉	1242.5	3位
7位	⬇	福岡	1227	13位
8位	➡	福井	1140	18位
9位	⬆	千葉	1130.5	5位
10位	⬇	北海道	1127.5	9位
11位	⬆	兵庫	1076	11位
12位	⬆	京都	1050.5	12位
13位	⬇	岐阜	1046.5	30位
14位	⬇	岩手	1003	2位
15位	➡	長野	940	19位
16位	⬆	広島	938	14位

【各競技入賞者】（10月7日終了時点）

競技名	種目	名前	所属	順位
陸上競技	成年女子300m	山口 真実	北九州市立高等学校	7位
陸上競技	少年男子400mハードル	花岡 一摩	東福岡高等学校	2位
陸上競技	少年男子Aハンマー投	小田 航平	敵塚高等学校	7位
陸上競技	少年男子B100m	木下 凛太郎	東福岡高等学校	7位
陸上競技	少年女子共通1500m	御崎 舞	筑紫女学園高等学校	7位
ウエイトリフティング	成年男子+105kg級スナッチ	太田 和臣	八幡中央高校	2位
ウエイトリフティング	成年男子+105kg級クリーン&ジャーク	太田 和臣	八幡中央高校	4位
ウエイトリフティング	成年男子+105kg級総トータル	太田 和臣	八幡中央高校	3位
空手道	成年男子組手個人中量級	明吉 洸樹	仏教大学	4位
空手道	成年男子組手個人重量級	江藤 純哉	近畿大学工学部	4位
ソフトテニス	成年女子団体	相野・越智・永末・松崎・矢野		8位



<陸上競技・表彰式の様子>

国体の情報については、大会ホームページ（<http://www.ehimekokutai2017.jp/>）より、ご覧ください。

※Facebook においても情報発信を行っています。「ふくおかスポネット」で検索してご覧ください。

【発信元】福岡県立スポーツ科学情報センター スポーツ推進課 企画情報係